

脳圧測定検査



子ども達に「勇気、夢そして笑顔」を

脳圧測定検査とは

脳や頭蓋骨の病変などにより頭蓋内圧(脳圧、ICPとも言います)が上昇し、頭痛や嘔気、意識障害などの症状を呈することがあります。

病変の確認は、頭部の CT 検査や MRI 検査により行われますが、頭蓋内圧の上昇は、画像検査ではわかりません。



当センターでは、頭蓋内に圧センサーを設置し、直接頭蓋内圧を測定する検査を行い、その後の治療を計画しています。

対象となる疾患

- ・頭蓋骨縫合早期癒合症 (狭頭症)
 - ・脳室拡大 (水頭症)
 - ・重症頭部外傷
 - ・脳梗塞
 - ・いろいろな脳症
- などの疾患です。

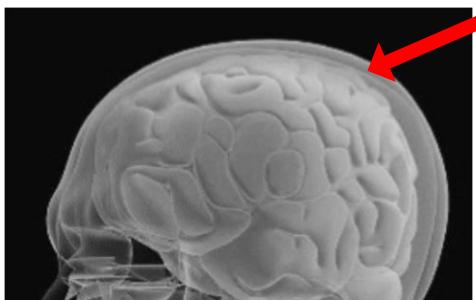


1週間前後の入院で行います。



全身麻酔による手術で、
頭蓋内に圧センサーを設置します。
頭部に数cmの傷が残ります。

センサーは、一般的に頭蓋骨内の硬膜外腔^{こうまくがいきう}*に設置します。

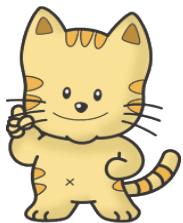


* 硬膜外腔：
頭蓋骨と硬膜との間、
硬膜(脳を守る膜)の
外側にあたります



測定は、手術後一般病棟で2～3日間行い、記録します。記録されたデータを解析し、今後の治療について検討します。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪母子医療センター

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840
患者支援センター TEL 0725-56-1220
FAX 0725-56-5605

2017.4.改訂